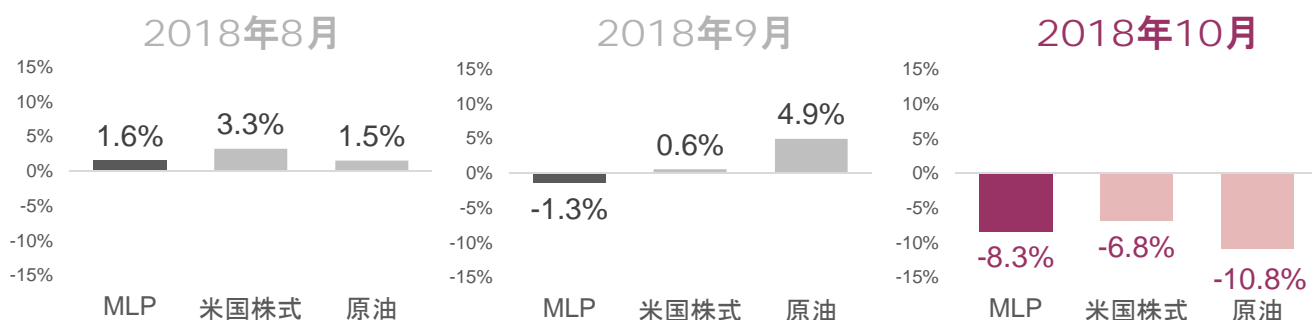


## ■当月のS&amp;P MLP 指数の動き

10月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比▲8.3%と2カ月連続で下落しました。

初旬は、個別材料が乏しい中、米国の石油製品などへの対イラン制裁再開を11月に控え、供給懸念の強まりを背景に原油価格が上昇したことからMLPは堅調に推移しました。しかしながら、その後は、米長期金利の急上昇や一部のセクターにおける決算発表を受け、米株式市場が急落したことから、MLPも大きく下落しました。公表が始まった7-9月期のMLPの分配金については、堅調な内容が確認されたものの、市場での反応は限定的でした。

## ■過去3カ月の主要指標の月次騰落率(米ドルベース、トータルリターン)



## ■主要指標の動き

MLP: S&amp;P MLP 指数、米国株式: S&amp;P 500 種指数、原油: WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	2018/10/31	2018/9/30	2018/7/31	2017/12/31	前月末比	3ヵ月前月末比	前年末比
<b>S&amp;P MLP 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	4,513.57	4,924.01	4,912.03	4,582.12	-8.3%	-8.1%	-1.5%
プライスリターン	1,432.15	1,573.46	1,590.45	1,550.13	-9.0%	-10.0%	-7.6%
<b>S&amp;P 500種 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	5,369.49	5,763.42	5,549.96	5,212.76	-6.8%	-3.3%	3.0%
プライスリターン	2,711.74	2,913.98	2,816.29	2,673.61	-6.9%	-3.7%	1.4%
<b>S&amp;P 500種 エネルギー株指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	881.50	993.40	1,001.37	924.42	-11.3%	-12.0%	-4.6%
プライスリターン	497.37	560.91	569.16	533.41	-11.3%	-12.6%	-6.8%
<b>S&amp;P 米国 REIT 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	1,235.85	1,267.53	1,262.64	1,237.27	-2.5%	-2.1%	-0.1%
プライスリターン	302.69	311.02	312.50	313.62	-2.7%	-3.1%	-3.5%
<b>米国ハイイールド債(ICE BofA Merrill Lynch 米国ハイイールド・インデックス(米ドルベース))</b>							
トータルリターン	1,272.80	1,293.99	1,277.27	1,262.20	-1.6%	-0.3%	0.8%
プライスリターン	74.86	76.51	76.32	78.21	-2.2%	-1.9%	-4.3%
<b>米国10年国債利回り</b>	3.14%	3.06%	2.96%	2.40%	0.08	0.18	0.74
<b>原油(WTI) 米ドル/1バレル当たり</b>	65.31	73.25	68.76	60.42	-10.8%	-5.0%	8.1%
<b>天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり</b>	3.26	3.01	2.78	2.95	8.4%	17.2%	10.4%
<b>米ドル(対円)</b>	112.94	113.70	111.86	112.69	-0.7%	1.0%	0.2%

※ 「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが世界のマーケット状況についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## ■当月の出来事いろいろ

- 10月4日、S&P MLP 指数の時価総額構成トップ銘柄である「エンタープライズ・プロダクツ・パートナーズ」が、7-9月期の分配金について前期比増配を発表。安定した増配基調を維持していることが確認された。なお、31日に発表された同社の7-9月期の決算内容も市場予想を上回るものだった。
- 10月19日、S&P MLP 指数の時価総額構成上位銘柄の「エナジー・トランスファー・エクイティ(ETE)」は、公表通り、同「エナジー・トランスファー・パートナーズ(ETP)」の買収を完了し、ETPは上場廃止となった。買収完了後、ETEは「エナジー・トランスファー(ET)」と名称を変更。
- WTI原油先物価格は、米国の対イラン制裁再開を11月に控え、原油の供給懸念が強まったことなどから、月初は上昇基調となり、10月3日に1バレル=76.41米ドルと2014年11月以来の水準を付けた。しかしながら、その後は、①米国株式の急落を背景に、投資家のリスク回避姿勢が強まったこと、②OPEC(石油輸出国機構)およびIEA(国際エネルギー機関)が、世界の経済成長の減速などを背景に世界の石油需要見通しを下方修正したこと、③サウジアラビアのエネルギー産業鉱物資源相が、米国の対イラン制裁開始を視野に、必要があれば増産する準備があると伝えられたこと、などから、反落し、WTIは31日に65.31米ドルとなった。
- 12日、OPECは、経済成長の減速や米シェールオイルの増産などを理由に、2019年のOPEC産原油の世界需要見通しを下方修正した。また、同日、IEAは経済成長の先行き懸念などを理由に、2018年と2019年の世界の石油需要予測を下方修正した。

## ■今後の注目点

- 米国による対イラン制裁の発動(11月5日)後における、イラン産原油の供給減およびサウジアラビアの増産動向が注目される。

## ■MLPの分配金動向

決算シーズンの際、MLP各社は、決算発表に先立ち、その期の分配金を発表するのが一般的です。10月から公表が始まっている、MLPの2018年7-9月期の分配金動向は、10月31日現在で、指数構成銘柄(55銘柄、2018年9月末時点)のうち、**49社の発表が終了しており、前期比での増配は24社、横ばいが22社、減配が3社**となっています。

＜S&P MLP 指数の上位構成銘柄\*と株価の月次騰落率＞  
2018年10月末現在

\*\* 「エナジー・トランスファー・パートナーズ」の買収完了後、「エナジー・トランスファー・エクイティ」から社名変更

\*上位構成銘柄は、2018年9月末時点

順位	銘柄名	業種 (事業分類)	2018年4-6月期		2018年7-9月期		株価の月次騰落率	
			分配伸び率 (前期比)	分配伸び率 (前年比)	分配伸び率 (前期比)	分配伸び率 (前年比)	2018年 9月	2018年 10月
1	エンタープライズ・プロダクツ・パートナーズ	石油・ガス 貯蔵・輸送 (川中)	0.6%	2.4%	0.6%	2.4%	0.5%	-6.6%
2	エナジー・トランスファー・パートナーズ		上場廃止					
3	マゼラン・ミッドストリーム・パートナーズ		2.1%	7.6%	2.1%	8.0%	-0.8%	-8.9%
4	エナジー・トランスファー **		0.0%	7.0%	0.0%	3.4%	-0.4%	-10.8%
5	プレーンズ・オール・アメリカン・パイプライン		0.0%	-45.5%	0.0%	0.0%	-4.2%	-13.0%
6	MPLX		1.6%	11.6%	1.6%	8.5%	-2.2%	-3.1%
7	バックアイ・パートナーズ		0.0%	0.0%	未発表		1.3%	-8.1%
8	EQTミッドストリーム・パートナーズ		2.3%	16.6%	2.3%	13.8%	-7.7%	-13.0%
9	アンデバー・ロジスティクス		1.5%	6.1%	0.0%	4.5%	0.0%	-17.5%
10	ウェスタン・ガス・パートナーズ		1.6%	6.7%	1.6%	6.6%	-10.6%	-9.4%

※業種は、GICS(世界産業分類基準)に基づく、事業分類は、日興アセットマネジメントによるもの

※2018年7-9月期の分配伸び率は、2018年10月31日時点で確認できたもの

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

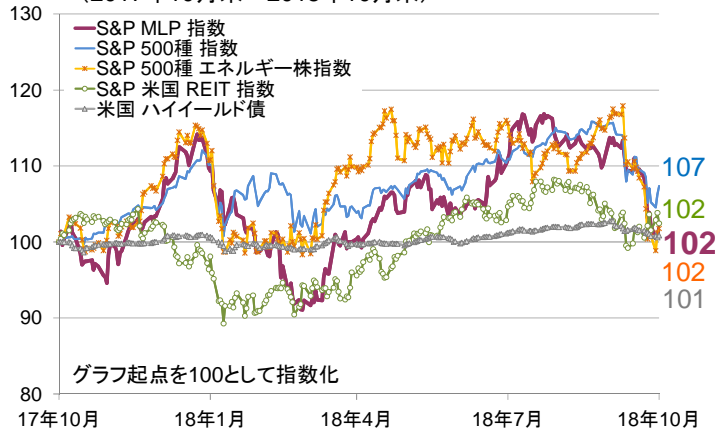
※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

日興アセットマネジメント

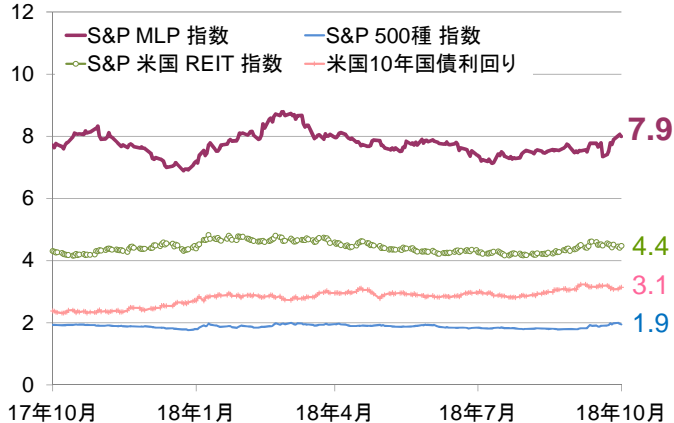
■当資料は、日興アセットマネジメントが世界のマーケット状況についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## ■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン) (2017年10月末～2018年10月末)



## ■各資産の利回り

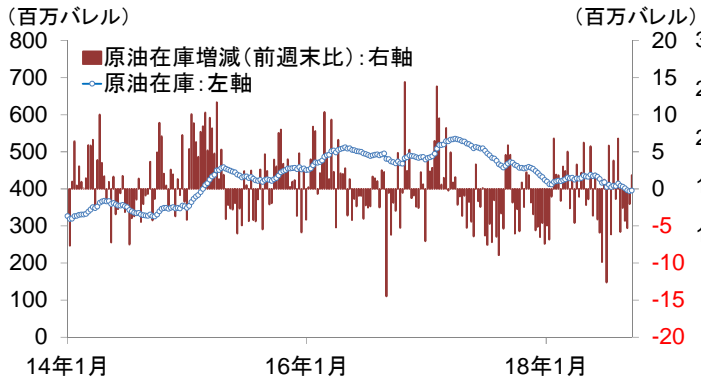
(%) (2017年10月末～2018年10月末)



※ 各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。  
 ※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

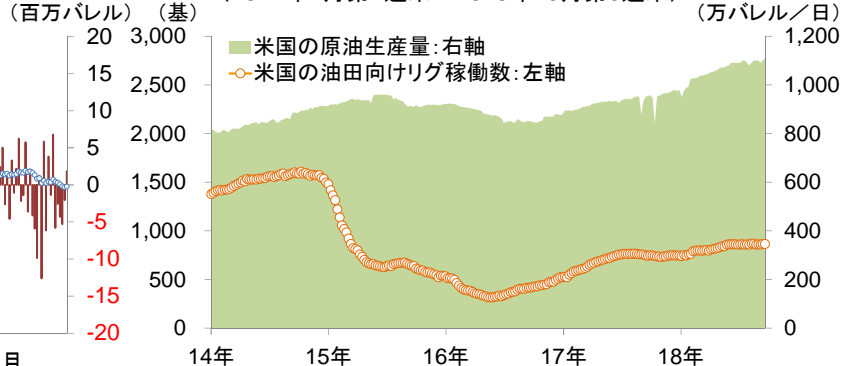
## ■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2018年10月第3週末)



## ■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

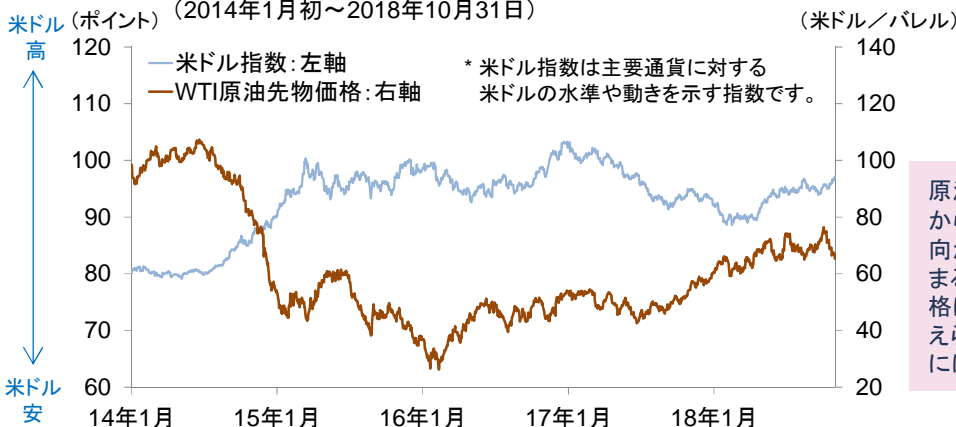
(2014年1月第1週末～2018年10月第3週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給悪化懸念(改善期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給悪化懸念(改善期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

## ■原油価格と米ドル指数\*

(2014年1月初～2018年10月31日)



原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル高基調が強まる場合、割高感などにより、原油価格に押し下げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。